

## 活動記録書

開催日： 令和6年4月4日(木) 天候 曇り	開催テーマ： 足利一族ゆかりの地を歩く
開催場所：鎌倉市	記入者：横山美智男
参加人数：会 員 18 名 ビジター 1 名 計 19 名	
<p><b>実施内容（実施の項目、方法、効果・成果、宿題 など）：</b></p> <p>コース：京急バス停「泉水橋」（集合）～足利公方邸跡～御馬冷場～いなり道～浄妙寺～報国寺～田楽辻子の道～関東管領上杉氏屋敷跡（上杉朝宗・氏憲邸跡）～京急バス停「杉本観音」（解散）</p> <p>今回は足利一族ゆかりの地を歩く。雨も上がり咲き始めたソメイヨシノが随所で見られた。泉水橋からすぐ近くに足利公方邸跡碑がある。周辺一帯は足利義兼が居を定めて以来約 270 年にわたって足利氏の鎌倉屋敷となった場所。鎌倉公方は尊氏の子基氏を初代に五代成氏まで世襲された。少し歩いた山の崖に源頼朝の愛馬、生食と磨墨の足洗い場との伝承の御馬冷場がある。浄明寺に向かう山沿いの道の途中に大きな榎があり、その下にいなり道の庚申塚が三基立つ。このあたりの地盤の低さは公方屋敷の池の名残ではないかとされている。</p> <p>更に 10 分ほど歩くと浄妙寺に着く。浄妙寺は鎌倉五山第五位、臨済宗建長寺派の寺院。初め真言宗極楽寺として足利義兼が文治 4 年（1188）創建。正嘉年間（1257～1259）に臨済宗の寺院になる。元弘 3 年（1331）に浄妙寺に改名したといわれている。</p> <p>総門をくぐると正面に本堂、起（むくり）と呼ばれる独特の屋根を持つ。本尊は釈迦如来像。寺の裏の墓地には、足利貞氏（1273～1331）の墓と伝えられる立派な宝篋印塔がある。実際には「明德 3 年」（1392）と記されていて、貞氏が亡くなってからかなりの年数がたっている。総門の東側の坂道を奥に進み、かなり急な石段を上がると鎌足稲荷神社がある。大化 2 年（646）に鹿島神宮に参詣する途中、浄妙寺の裏山に「鎌」を埋めたとされる。鎌倉の名はこの話しがもとだとも伝えられている。</p> <p>浄妙寺を出て鎌倉街道を歩くと華乃橋の際に庚申塔がある。更に数分進み報国寺の入り口に着いた。報国寺は臨済宗建長寺派の寺院で建武元年（1334）に足利家時が創建したと伝えられる。宅間上杉を開いた上杉重兼開基説もある。かつては足利氏と上杉氏の菩提寺として栄えた。明治時代の火災で貴重な寺宝が失われたが、開山の天岸慧広が元にした時から帰国後に亘って作った漢詩を集めた「東帰集」（国重文、五山文学の代表作品）が伝えられている。本堂裏の崖に足利一族等の墓（家時と義久とされる宝篋印塔）と伝えられるやぐらが並んでいる。青々とした手入れの行き届いた美しい竹林を一回り、さすが「竹の寺」と感心する。本堂左の鐘楼の脇に多数の小さな五輪塔が置かれている。碑には「元弘 3 年（1333）5 月の北条一族と新田勢の合戦の折の、両軍戦死者の遺骨を由比ガ浜より改葬した」旨が記されている。</p> <p>報国寺前から田楽辻子の道に入る。筋替橋まで続く小径、田楽師が住んでいたことから名前が付いた。途中に上杉朝宗・氏憲屋敷跡の碑がある。氏憲は関東官領職を巡る争いから足利持氏に謀反を起こし敗れて雪ノ下で自害した。県道を杉本観音バス停まで歩き解散した。</p>	
<p><b>参加者の状況・意見など</b></p> <p>雨予報の影響か、それとも春休み時期のせいかわからないが、参加者が少なめであった。今回で 2023 年度の探訪はすべて終了、一年を通し事故無く無事に回れたことに感謝したい。</p>	
<p><b>次回の予定：</b></p> <p>・令和 6 年 4 月 12 日(金) 10 時(受付 9 時 30 分) 金沢公会堂多目的室 2023 年度総会</p>	